

Centric Space Occlusion 理論に基づいた マウスピース治療の手順とエビデンス

○田中俊樹¹⁾、尾澤暢彦²⁾

¹⁾医療法人聖徳会田中歯科クリニック、²⁾東京デンタルクリエイト

¹⁾ Medical Corporation Seitoku Group Tanaka Dental Office,

²⁾ Tokyo Dental Creat

【目的】

咬合が、生体の肉体と精神の健康状態に深く関与している事は広く知られている。ところが、2019年現在、理想的咬合の実態が未だ明確にされておらず、咬合の規格化と治療法の確立が一般歯科治療の大きなテーマとなっている。

生体と調和した咬み合わせで、痛みなくしっかりと咬めると言うことは、健康寿命の延伸につながるという多くの研究発表があり、立証されている。

私たちは、2018年第28回日本全身咬合学会にて不正咬合症候群、咬合違和感症候群、コストデン症候群などの不定愁訴を訴える患者に対し、Centric Space Occlusion (CSO) の理論に基づいた症例報告を発表した。

今回は、『CSOマウスピース』治療方法で良好な成果を得ているので、現在本医院で行なっている適応症の診断法と診査項目とそして手順を公開し、一般歯科臨床への普及を目的とします。

【方法】

『CSOマウスピース』適応症患者の選出法

A: 『不正咬合症候群』及び咬合由来を疑う

主訴の分類

- 1) 歯：咬合痛、咬耗、動揺、知覚過敏、欠損症、不良補綴物、等
- 2) 歯槽骨：歯肉炎、歯周炎、骨隆起、等
- 3) 顎関節：顎関節痛（自発痛、圧痛、機能痛）、開口障害、機能不全、等
- 4) 筋肉：咀嚼筋群の痛みコリ、周辺関連筋肉の痛みコリ（肩、頭、腰）、等

B：咬合診査項目

- ①上顎咬合平面と歯列の診査：挺出、圧下、水平、歯数、歯牙形態、等
- ②上下顎の正中の機能診査（左右のズレの診査）

③顎位の診査（Vertical Stop, Key Tooth 3, 6,）

タッピングによる早期接触のチェック

④下顎の側方運動と前方運動による早期接触のチェック。

⑤問診表の記入（術前、術後）

上記の項目より情報収集、分析そして、診断、治療。

C: 咬合治療

①上顎咬合平面の形態修正（Dyna Verty System）

補綴、外科、矯正

②上下顎の咬合調整（BULLの法則）

保存（充填）、レーザー、歯周

③CSOマウスピースの装着

下顎正中の修正、顎位の補正、顎位の安定（6 X 2点）

【結論】

『CSOマウスピース』装着後の評価結果
問診表の症状別（74項目）数値化（0, 1, 2, 3,）による装着前からの病状改善率

- 1) 歯（6, 7, 8, 9,）：74%（28/38名）
- 2) 歯槽骨（13）：86%（7/8名）
- 3) 顎関節（1, 2, 3, 4, 5,）：76%（25/33名）
- 4) 筋肉、頭痛（15~30）：87%（40/46名）
- 5) その他（11, 12, 14, 31~74）：76%（38/50名）

上記の結果より、『CSOマウスピース』は、不正咬合症候群、咬合違和感症候群、Costen症候群等の治療法として有効である事が、判明した。

また、この治療法は、全顎治療（Oral Rehabilitation）における最終目標である健全な『Personal Balanced Occlusion』の再構築への重要な術式の一過程であることを示唆するものであることを確認した。